

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	0770700417		
法人名	社会福祉法人 篤心会		
事業所名	社会福祉法人 篤心会 エルピスホーム(ユニット名:空)		
所在地	〒962-0813 福島県須賀川市和田字沓掛48-1		
自己評価作成日	平成22年7月16日	評価結果市町村受理日	平成22年10月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do">http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県中町4番20号		
訪問調査日	平成22年8月10日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

身体機能の低下や認知症の進行により重度化してきているが、利用者が安心して生活できるように健康管理に気を配り、協力医療機関と連携を図っている。日常的な外出が困難になった利用者にも玄関先や花壇、畑を活用し草花の手入れや水やり、外気浴を楽しむ等の日常的に楽しみながら活動できるような環境作りに努めている。又、エルピスホームは果樹園の広がる一角にあり、目の前を通る道路は空港へと繋がり、のんびりとした中に人々が行き交う様子がみられている。近くには牡丹園もあり、穏やかな四季折々を感じながら過ごして頂いている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

1. 毎朝全職員で理念を唱え共有しながら実践に向けて取り組んでいる。また、職員一人ひとりの介護に対する意識は非常に高い。  
 2. 母体である病院は協力医療機関として24時間受入体制がある。また、職員は緊急時の対応がスムーズに行えるよう研修を受けており、利用者・家族の安心につながっている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝朝礼にて職員全員で理念を唱和している。理念を常に念頭におき、統一したケアの実践に努めている。	全職員で毎朝理念を唱和したり、日頃の支援の中で管理者から掘り下げて話しをすることで職員全員が理念を理解しており、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民の方々とは、日頃より挨拶を行い野菜や果物の差し入れを頂くなど交流を行っている。地元の集会に参加や地域の行事の見学など少しずつ関係性が構築されてきている。	日常的な挨拶等は行われており、近隣から野菜・果物等の差し入れがあるが、地域との交流が十分な体制とは言えない。今年から町会行事等への参加を始めておりこれからの取り組みが期待できる。	町会の行事に利用者も一緒に参加をしたり、地域ボランティアや学生の体験学習等を受け入れる等地域と双方向で交流を行って欲しい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在、介護主任が認知症キャラバンメイトとして行政担当者とともに認知症サポーター養成講座を行い、須賀川市民の認知症の理解や支援が得られるように取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度の定期的な運営推進会議を開催。家族会代表、民生委員、地域包括支援センター、地域住民代表などの会議メンバーで構成。事業所の現状報告した上で意見や助言を頂き、サービス向上に活かしている。	運営推進会議は定期的に行われており、参加した委員からは積極的に意見等が出され、出された意見はサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者が定期的な市の会議に参加また介護主任が市で行なわれる認知症キャラバンメイトなど介護に関する研修への参加を通し市担当者や地域包括支援センターの職員との連絡を密にし、協働関係を築くよう取り組んでいる。	行政や市内の介護保険事業所が参加して定期的に会議が開催されており、情報交換が行われている。また、職員がキャラバンメイトを引き受け、市と協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中玄関は施錠せず、チャイムを設置し外部の来客者がわかるようにしている。拘束については、研修会に参加し職員の意識向上と実践に取り組んでいる。ミーティング、連絡ファイル等を活用し内容に応じて口頭や文書で伝え、職員周知徹底を図っている。	身体拘束をしないケアの実践に向けて職員は外部研修会等に参加し勉強してきた事を事業所内研修等で他の職員にも伝えている。日中、玄関等の施錠はせず職員の見守り等で対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修やミーティングなどで高齢者虐待防止法を修得、職員全員に浸透、遵守がされるよう話し合いを実行し防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加した職員により、利用者の状況によって必要な支援が受け入れられるように取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約時において経済的な不安や個人情報等を含め状況に応じて相談、支援している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には、近況報告とともに家族へ意見、要望等について確認している。何でも話して頂ける雰囲気作りや家族との懇談を大切に信頼関係の確立に努めている。	法人全体で利用者・家族を対象に接遇のアンケートを毎年実施し、意見等の把握に努めている。また、家族来訪時に利用者の日頃の様子を伝え家族等から意見等が出やすい雰囲気作りをしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員全員による全体ミーティングを開催し管理者や職員間で意見交換をしている。また年2回の個別面接を行い出された意見や提案を管理者へ報告し相談している。その結果を職員に伝え、働く意欲の向上につなげている。	毎月、全体ミーティングを行い参加した職員からは積極的に意見等出されている。出された意見は必要に応じて法人全体の管理会議等で検討し運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の日頃の努力、具体的な実践、勤務状況を把握し処遇へ反映し、向上心を持って働けるように職場環境条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員レベルに合わせた外部研修へ積極的に参加や事業所内で定期的に勉強会を開催している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会主催の研修会等へ参加し、情報収集や交流を図っている。またグループホームの施設間での職員交換研修にも参加し、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前より本人の思いを確認しながら必要なサービスの提供を行い、安心して入居して頂けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者、ご家族のどんな小さな不安や要望にも耳を傾けそれぞれの思いを把握し、ホームとしての援助方針を話し合い確認しながら、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に担当ケアマネなどと連携を図り、利用者、ご家族が今一番必要としている支援を見極めその他のサービスも含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中でできる事は行なって頂き、サポートが必要な方には一緒に同行関わることによって共に喜びを分かち合い、馴染みの関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族への連絡を密にし利用者状態を報告、必要によっては、ご家族へ支援をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親類や友人の方が来訪された場合はゆっくり過ごせるような環境を提供している。利用者の馴染みの場所へ外出するなど関係が途切れないよう、継続的な支援を行なっている。	利用者の自宅や昔住んでいた地域へ出かけたり、家族と墓参り、ドライブ等に外出をし今までの関係継続を支援している。また、家族、兄弟、友人等の来訪があり、ゆっくりと過ごせるよう配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の生活や趣向、利用者同士の関係も把握した上でテーブルの配置を考慮したりと一人ひとりが孤立しないように、またトラブルにならないよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設特養ホームへ入居された方に関しては、面会を継続している。またご家族に合った時など必要に応じて相談や支援している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分の意見を表出できる方には、暮らし方の希望、意向に関して尋ね把握に努めている。意思表出の困難な方に関しては、日常生活の中で見せる表情・行動・生活歴、家族からの情報により職員間で話し合い共有しながらケアに活かすよう努めている。	日常会話の中から利用者の思い等聞き取り、記録に残し職員間で共有しながら支援している。意思表示の困難な場合は、利用者の表情等から推し量り家族情報も得て検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常会話の中からの把握又、家族の面会時に生活歴や暮らし方サービス利用の経過等の把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの身体機能、認知症の状況を観察し総合的に把握するよう全職員が共有し、共通理解できるよう取り組んでいる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員全員がカンファレンスに参加、サービス担当者会議を開催し職員から多面的な意見交換を行っている。看護師や併設特養管理栄養士などの意見や利用者、ご家族の要望を反映した利用者主体となる介護計画を作成するよう努めている。	利用者・家族の思い、利用者の身体状況の変化を基に現状に即した介護計画を作成している。介護計画に沿った記録を確認しながら職員全員でカンファレンスを行い、介護計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録には日常的な事は勿論のこと利用者同士の会話、家族面会時の様子や要望・本人の発した言葉をそのまま記入。ケアプランに添った記録を記入しケアの実践や介護計画作成に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同法人内の事業所(特養ホーム・小規模)と連携し利用者の方との交流やレクリエーションへの参加などその都度生まれるニーズに対応できるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の果物直売所に散歩がてら買物に行ったり、野菜直売所へも出掛けたりしている。また同法人内で行なわれる合同行事に参加したりボランティアの慰問の方々と交流したりと暮らしを楽しめるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に受診体制を利用者とご家族に確認し支援している。受診時職員が同行し受診結果はその都度家族へ報告している。必要に応じて受診や往診をしてもらえる協力病院との体制作りができています。	かかりつけ医の受診の際は職員が同行し、その日の内に電話などで受診後の報告を家族へ行っている。協力病院は24時間受入体制があり、歯の治療は協力歯科医の往診が可能である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の利用者の状態を確認してもらい、少しの変化でも報告、相談し指示を仰ぎ対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には少なくとも1日おきには面会に行き、洗濯物の交換を行なっている。その際、病院関係者と情報交換や相談を行い関係性を密にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「看取りの指針」が作成され契約時に利用者や家族に説明し同意をもらっている。身体状態や必要に応じて話し合いを行い、職員間で方針の共有に努めている。	入居時に利用者と家族へ看取りの指針の説明をし、同意を得ている。また、身体状況等変化した際の意向等も話し合って確認している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルを作成されており、看護師による指導訓練を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月日中、夜間を想定し様々なシミュレーションでの避難訓練を行い年1回は消防署立会いのもと実施している。また近隣住民に避難訓練のお知らせをして呼び掛けているが、まだ実施には至っていない。	毎月、日中や夜間を想定し様々な訓練を行っており、年一回は消防署立会いの下で避難訓練を実施している。しかし、地域の協力体制はまだ得られていない。出入り口等にはスロープを設置し、車椅子等での出入りもしやすいよう配慮されている。	運営推進会議の日に避難訓練を行うなど、委員の方々に実際に見て頂き委員に実感されるよう工夫されてはどうか。地域等への積極的な呼び掛けを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格を尊重した言葉使いや態度となるように心掛けている。個人情報保護の取り扱いについても契約時に利用者やご家族に説明し同意をもらうなどの対応に努めている。	職員は言葉使いや態度には十分注意を払い、利用者の尊厳やプライバシーを重視し支援している。また、プライバシーの確保に関する研修等も実施している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉だけでなく表情などからも思いを汲み取り、利用者が自然に表出できるような関係作りを心掛け、できる限り自己決定ができるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のその日のその時の思いを尊重し利用者のペースに合わせ柔軟な対応に努めている。天気が良い日に外を眺めていたら、散歩に行きたくなった等の希望が聞かれた時は本人の思いを優先し支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一緒に洋服を選んだり又、化粧や毛染めの介助を行ったりと、その人らしい身だしなみやおしゃれを支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	職員と一緒にできる範囲内で野菜の下準備や調理、盛り付けなど楽しみながら行なっている。食事は、職員が同じ食卓を囲み一人ひとりがゆっくり食事ができるように支援している。	献立は利用者の好みに合うよう工夫されており、利用者と一緒に味見をしたり柔らかさの確認をしたりしながら調理をしている。また、職員も利用者と一緒にテーブルを囲み和やかな雰囲気作りをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同法人内の管理栄養士に相談し個々の利用者に合った食事を提供している。又、水分量、食事量をチェック表にて確認しながら摂取量確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者一人ひとりに合った口腔ケアを実施している。就寝前には義歯洗浄剤に浸し清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄チェック表やセンター方式を使用し、本人のトイレでの排泄リズムの把握に努めている。トイレの声掛けの工夫やさりげない誘導により可能な限りトイレで気持ちよく排泄できるよう支援している。	利用者の排泄リズムや状況に合わせて人格や尊厳を損なわせることなく、さりげなく支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ自然排便ができるように食事に乳製品や食物繊維の多い食材を小まめに取り入れている。又、自然排便が困難な方には、腹部マッサージやセンナ茶を提供し早めの便秘予防を心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の利用者の希望に添った入浴支援を行っている。また、足浴や法人内の機械浴の利用など利用者一人ひとりに合わせた支援を行っている。	一人ひとりの希望に沿ってゆっくり入浴が楽しめるよう支援している。身体状況に合わせて法人内機械浴を使用し対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの活動状況、体調、生活習慣に合わせて休息する時間を設けるよう努めている。冬はこたつでも眠れるよう家庭に居る雰囲気の中で安心して休息できるような環境作りをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人ひとりの薬について医師や看護師の説明、処方箋、薬辞典等を活用し理解している。症状に変化があった時や薬の処方や用量が変更された時は速やかに看護師や協力病院に連絡し、指示を仰ぐことができる体制が出来ている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の希望や生活歴、家族からの情報を元にドライブや外出など楽しみごとや気分転換の機会を設けている。又、一人ひとりにあった楽しみや有する力を最大限発揮できるような場面作りに取り組んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の体調や天候、その日の希望に添ってドライブや買い物などに出掛けている。事業所の行事として季節に合わせた催し等外出の機会を多くしている。又、家族の協力のもと、ドライブや外出などにも出掛けている。	職員から声掛けしたり、利用者からの要望に合わせて、買い物や散歩、ドライブ等に出掛けている。また、家族の協力でドライブ、外食に出掛けることもある。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の希望時には、職員と一緒に買い物を行っている。又、セルフレジを利用し自分の財布から支払いをして頂き、買い物する楽しみや満足感を味わえるような工夫をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホーム側からの用事で家族に電話連絡する際は、利用者が家族と話せるように配慮している。又、字が書けなくなった利用者には職員が手を添えて名前だけ書いてもらったり、写真を送るなどの支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓を開放し自然の風や匂い、草花や絵、写真を装飾し、季節感を五感で感じながらくつろげる空間作りに努めている。又、利用者が、不快や混乱をまねかないよう生活環境にも配慮している。	共用空間は風が爽やかに吹き抜ける造りとなっており、利用者が集まり寛いで過ごしている。また、ソファを各所に配置し一人になれる工夫が見られる。共用空間は季節ごとの装飾がされており、季節感に溢れ明るい雰囲気である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関や廊下にソファや椅子、居間にはこたつを設置している。利用者同士の関係性に配慮しながら、一人で過ごしたり気の合う利用者同士で思い思いに過ごせるような空間作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	利用者の使い慣れた馴染みのものを持参してもらい、戸惑うことなく生活しやすいように努めている。写真や装飾物など家族にも協力していただき、その人らしい居室作りを行い、安心して居心地良く生活できるよう支援している。	一人ひとりが使い慣れた馴染みの物を入居時に持ち込んでもらい、個性的な居室作りがされている。利用者は安心して居心地よく過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者に合わせた家具やテーブルの配置を変えたり居室やトイレ、浴室など分かり易い表示となるよう工夫している。又、有する力を活かせるよう生活環境に努めている。		